

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G201	ミクロ経済学 I	2年	講義	2	森寛史
<p>授業概要</p> <p>ミクロ経済学は、様々な分野の経済学やシティライフ学を学んでいく上での最も基礎的で重要な科目の一つある。また、経済学入門履修後の科目として位置づけられているので、入門での内容を踏まえつつも、より詳細に消費者・生産者の理論について講義を行っていく。その際、理解を深める手だてとしてテキストにある具体的な例題なども解いていくことになる。</p>					
<p>到達目標(学習の成果)</p> <p>経済的合理性を前提としたときの消費者・生産者行動の基礎理論を学ぶことで、経済活動の根底にあるのメカニズムを理解することを目標とする。</p> <p>具体的には、図や式を多用するので、それらと経済的概念との関係についての理解を深めることを目標とする。また、身近な経済問題について、経済学の視点から考えられるようにする。(DP3)</p>					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	ミクロ経済学とは何か	ミクロ経済学の目的と分析手法について講義する。			
2	需要と供給、弾力性の考え方	需要曲線と供給曲線、そのシフト;弾力性の考え方について講義する。			
3	需要と供給分析の応用、その1	需要と供給分析の応用事例として、豊作貧乏を取り上げる。			
4	需要と供給分析の応用、その2	需要と供給分析の応用事例として、地価の問題を取り上げる。			
5	需要と供給分析の応用、その3	需要と供給分析の応用事例として、消費税の負担の問題を取り上げる。			
6	需要曲線と消費者行動、その1	需要曲線とは、需要と収入との関係などを論じる。			
7	需要曲線と消費者行動、その2	需要曲線の応用事例として、価格差別の問題を取り上げる。			
8	需要曲線と消費者行動、その3	需要曲線と消費者余剰について説明する。			
9	費用構造と供給行動、その1	供給曲線とは何か、供給者の行動原理について考える。			
10	費用構造と供給行動、その2	様々な費用概念とそれらの関係について取り上げる。			
11	費用構造と供給行動、その3	利潤最大化行動と供給曲線、生産者余剰の考え方について論じる。			
12	独占と寡占	独占、寡占市場における価格決定について考察する。			
13	市場取引と資源配分、その1	価格を通じての経済主体の行動を余剰分析によって論じる。			
14	市場取引と資源配分、その2	資源配分のゆがみの問題を取り上げる。			
15	市場競争の意味について	ミクロ経済学のまとめとして、市場競争の意味を考えてみたい。			

準備学修(授業外の自己学修)

テキストの最低限度の復習と共に、身近な経済現象の背後にどのような理由があるのかを常に問題意識を持って考える習慣をつけてもらいたい。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末テスト80%、出席・授業態度20%

観点	S	A	B	C
ミクロ経済現象の経済学的理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済現象を図や式で表現する方法についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

倉澤資成 『入門 価格理論 第2版』(2013/9)日本評論社、3240円

参考書等

福岡正夫著『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店 他

履修上の注意・学修支援

経済学を理解するためには、知識を基礎から少しずつ積み上げて行くことが肝要なので講義に出席をすることは当然として、予習・復習を欠かさずに行うよう心がけること。